

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	京都市立洛央小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	3	2	2	17	24
児童数	86	81	70	65	84	72	3	461	

研究の概要

1. 研究主題

<p><b>豊かに感じ，自ら学び，共に考えを深め合う子</b>          - 個に応じた指導の充実をめざして 理科・生活科 -</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1, 2年生 生活科          学校として、当該教科に関する研究実績があるため</p> <p>3, 4, 5, 6年生 理科          学校として、当該教科に関する研究実績があるため</p>
--

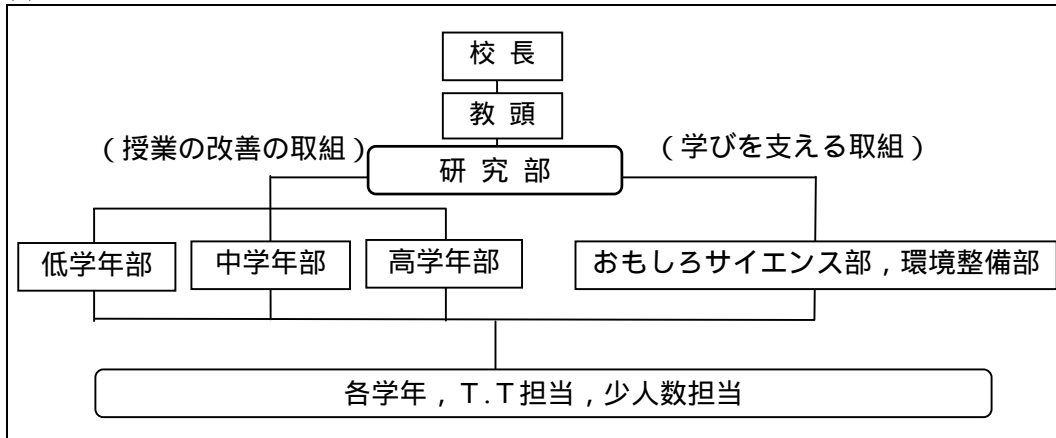
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ          豊かに感じ，学びあい，ともに考えを深めあう子</p> <p>仮説          自ら自然に働きかけていく問題解決の活動を繰り返し経験するとともに，その過程の中で友達と相互にかかわり合い高めあうことを大切にすることにより，子どもたちの豊かな人間性と主体的な問題解決の能力を育てていく。</p> <p>研究内容・方法          内 容          ・個に応じた指導の充実に向けて授業改善を図る。          ・子どもたちの発達段階に即した学びあいのありかたを探る。</p> <p>方 法          ・授業研究（全学年）          校内での公開授業，それに伴う事前，事後の協議会          ・講師を招いての理論研修          ・研究実践をまとめた冊子の作成          ・全国に向けて研究発表会の開催（全学級授業公開）          ・先進校の視察による研修</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>仮説</p> <p>理科において育てたい資質能力に焦点を当て、学習計画、評価内容や規準を工夫改善する。また、発展的・補足的な学習を核として、評価を生かした支援や個に応じた指導のあり方を探っていくことにより、子どもたちの豊かな人間性と主体的な問題解決の能力を育てていく。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導を充実していくために、協力指導など、学習形態・指導方法・指導体制を工夫改善する。</li> <li>・適切な評価に基づいた発展的な学習や補足的な学習など、個に応じた指導の方法について研究する。</li> <li>・学びを支える取組として、地域の自然や科学と関わる体験的活動のための教材開発を行いその実践を行う。</li> </ul> <p>方 法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究（全学年） 校内での公開授業，それに伴う事前，事後の協議会</li> <li>・講師を招いての理論研修</li> <li>・研究実践をまとめた冊子の作成</li> <li>・全国に向けて研究発表会の開催（全学級授業公開）</li> <li>・先進校の視察による研修</li> </ul>
----------------	--

平成 16 年度	<p>仮説</p> <p>理科において育てたい資質能力に焦点を当て、学習計画、評価内容や規準を工夫改善する。また、発展的・補足的な学習を核として評価を生かした支援や個に応じた指導のあり方を探っていくことにより、子どもたちの主体的な問題解決の能力を育て、確かな学力の獲得をめざす。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導を充実していくために、協力指導・少人数指導など、学習形態・指導方法・指導体制を工夫改善する。</li> <li>・適切な評価に基づいた発展的な学習や補足的な学習など、個に応じた指導の方法について研究する。</li> <li>・子どもの獲得した学力を確かなものとするため、単元の終末における学習活動のあり方について研究する。</li> <li>・学びを支える取組として、地域の自然や科学と関わる体験的活動のための教材開発を行いその実践の充実を図る。</li> </ul> <p>方 法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究（全学年） 校内での公開授業，それに伴う事前，事後の協議会</li> <li>・講師を招いての理論研修</li> <li>・研究実践をまとめた冊子の作成</li> <li>・全国に向けて研究発表会の開催（全学級授業公開）</li> <li>・先進校の視察による研修</li> </ul>
----------------	--

### (3) 研究推進体制



#### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

- ・理科においては、発展的・補足的な学習に焦点を当て、学習指導に生きる評価の工夫と連携させて指導実践を進め、個に応じた指導を中心とした授業の改善を図ることができた。
- ・生活科・生活単元学習においては、一人一人の活動を丁寧にみとり、子どもの思いを学習活動に生かしていくことができた。
- ・各取組を進める中で、観察実験に確かな自分の考えや思いをもって取り組み、結果にこだわりながら、納得いくまで活動を続けるなど、児童に変容が見られ始めてきている。

##### 2. 今後の課題

- ・変容する児童の実態を具体的にとらえる評価の工夫と、発展的・補足的な学習を核とする個に応じた指導の充実（理科）による確かな学力の定着
- ・一人一人の活動を丁寧にみとり、次の指導に生かす取組の充実（生活科、生活単元学習）
- ・体験的な課外学習「おもしろサイエンス」を中心とする「学びを支える取組」の充実と新たな展開

#### 学力等把握のための学校としての取組

- ・「京都市教育課程実施状況把握調査」の実施、結果の集計・分析。
- ・授業時における子どもの様子のみとりと、その記録・分析。

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

##### 平成15年度

- ・研究発表会開催

日時 平成15年11月7日（金）

場所 本校教室・体育館

対象 京都市内及び京都府下の全小学校・他府県の小学校（500校）に案内状送付，教育関係雑誌に発表会要項を掲載

- ・HP作成 校内の取組等を掲載 URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/rakuo-s/>
- ・他府県からの学校視察の受け入れ

##### 平成16年度 研究発表会開催（11月予定）

- ・HP作成 校内の取組等を掲載
- ・他府県からの学校視察の受け入れ

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |                                      |                            |                          |
|----------------------|--------------------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 【新規校・継続校】            | 1 5 年度からの新規校                         | レ 1 4 年度からの継続校             |                          |
| 【学校規模】               | 6 学級以下<br>レ 1 3 ~ 1 8 学級<br>2 5 学級以上 | 7 ~ 1 2 学級<br>1 9 ~ 2 4 学級 |                          |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>一部教科担任制                     | レ T . T による指導<br>その他       |                          |
| 【研究教科】               | 国語<br>レ 生活<br>体育                     | 社会<br>音楽<br>その他            | 算数<br>レ 理科<br>図画工作<br>家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |                                      | レ 有                        | 無                        |